

「日系アメリカ人の叢史」に関する取材で思うこと

私は小さい頃にTV「第二次世界大戦」を見ていて日本人の顔をした米軍の服装した人を見て疑問を感じてから関心を持ち始めた。「なぜ日本人が米軍服を着てるの？」と父さんに尋ねたら「違うよ。あれは日系二世だよ ヤンキーサムライだけど勇者だ」と言われても理解出来なかった。それから、祖父（父の方）も元軍人なので改めて尋ねてみたが「・・彼らは日系二世だが、アメリカに忠誠な人たちだよ。沖縄を攻めるまでは日本語通訳として活躍したとか、なかなか勇気のある大和魂だね もし、日系二世の存在が居なかったらどうなるだろうね？戦争が長引くかも？」と言われて「ウンウン」と・・書店にある戦争シリーズ、数え切れないほど並んでいたが、写真付き本を購入して読んでみた時は「あ！もしかすると日系アメリカ人の聾者も居たはず！！」と・・

長い間知人、友人にあちこちで聞いてみたが、「心当たりはないね・・」「日系アメリカ人は控えめで目立たないのでは？」「全米ろう協会役員にも見たことがないね」等、情報収集は停止状態だった。

たまたま、1985年に「世界ろう者競技大会」がロスにて開催した時で応援団ツアーに参加した私がアメリカ応援席にいた日本の顔した人に「日系アメリカ人聾者？」と尋ねてみたら、多くの方が居られた！しかし、その時は私がASL（アメリカ手話）が出来なかった為に、なんとか身振りで通じたけど・・無念さで心残りが今も忘れられない。「あなたはアメリカで生まれた？両親は日本生まれ？」と「はい、私たちは日系二世アメリカ人よ！」と華やかなチャレている日系聾女性の年配たちから言われた手話表現は今も頭に焼き付いている。ろう学校で教えている日系三世聾者教師、日系三世聾者歯科技工士の青年らも話し合えて・・生い立ち話を聞かせてくれた。「アメリカという国は自由を与えてくれるとか、夢も語ってくれるが、現実には厳しい！見えない人種差別もまだまだあるし、日系アメリカ人という誇りを忘れてはならないから乗り越えるまでに続けるんだね」と・・真剣な目が印象的だった。

そしてハワイへ・・やはり、本土とは違ってハワイの日系聾者は親しみやすくて「あなたは日系アメリカ人？」と「そうだよ 僕は日系四世！移住者出身はヒロシマ！又はクマモト、ワカヤマからもいるよ 今なら、日系四・五世位ね」と応えてくれた。しかし・・その時は遊び目的で行ったので記録の取材は行なわなかったことを今もすごく後悔している。

とうとう、21世紀にめでたく入りましたが、・・20世紀を振り返って見ると、置き忘れた「日系アメリカ人聾者」というテーマを起こし出そう！と決意した。インターネット検索、全米日系人博物館の担当に問い合せてみた

- ①現在で「日系人老人ホーム」の中に聾者が居るか
- ②第二世界大戦期間で各強制収容所の中に聾者は居たか、他の身体障害者はどのように過ごしたか？その中にろう学校もあったのかとか、特殊教育も行

なったか、当時の聾者数のデータも調べられますか?・・・と答えてきたのは「戦時中の収容所内での聾者の生活については収容所経験者に聞くと、そういう特別の教育があったか、なかったか、あの頃はアメリカも身障者に対する社会的理解は少なく、主に家族の責任になっていたのではないかというのが大方からの意見でした。又日系老人ホームも聾者が居りませんでした。ほとんど資料が見つからないし、結果が出ない状態です・・・」だった。
(しかし、今後も問い合わせるつもりです!)

先月私はロスへ思い切って飛んで行ったが、知人のおかげでネットワークを生かしながら、取材結果は100%を目指すだけではなく今後への一步として活用できればと思っている。

前から絶対にマンザナル収容所跡へ行こうという目的で到着出来るまで、意外だった!!ロスから車で約3時間かかっても砂漠の真中を通った道路の上には、まるでフライパンの上で熱くてペットボトルがお湯に化けたし、私の顔、体も右のみで日焼けてしまった!やっと到着した時は胸が裂けそうだった。当時のバラック小屋の跡はなく雑草だけがゆれている。このまわりに車で乗って見学案内を受けて廻ってみた。学校、病院、墓、図書室等の掲示が立っていた。その廻りに枠で囲まれた木造の古びた所に千羽鶴をかけてあったのを見て悲しみを感じた。又慰霊塔は1943年から建っていて供養石、ドルコイン、千羽鶴等置かれてある。あたりは静まりかえり、日系アメリカ人も訪れていた姿を見て色んな想像しながら立ち止ってしまった私。

当時はアメリカ政府の政策によりあまりにも突然で3~6日前に収容所行きを通告され、家を売り、わずかな所持品だけにスーツケースに詰めて怯えている日系アメリカ人家族が長い列車から下りて真っ先に見たのはマンザナルである白い雪が見えるのはシエラネバタ山脈(4000M)です。錯覚的な見れば富士山のように・・・特に一世が何を想って眺めていただろうかと。しかし、ここで過ごしたバラック小屋の内、外も夏になるとギラギラ照りつける太陽は体中の水分を奪いダウンするし、冬になると気温が下がり、壁や窓の透き間から砂ぼこりが入ってきた等苦悩の日々を送っていた中に死ぬか(徴兵に反対して投獄された)軍隊に入るしか選択のなかった若者のことを思い浮かべただけで心から祈っていた。

ある大学の図書館へ行ったら、知人の友人という日系三世聾女性が来ていたので「第二次世界大戦中にてすごした日系アメリカ人聾者の情報を知りたい。」と猛烈に聞いてみた。「あ!居ました。しかし・・・残念ながら、あの方は以前にて亡くなりました。」と言われて絶望感に落ち込んでしまった。「でも2年前の‘アメリカ デフ・ウーマン・ヒストリー(アメリカ聾女性史)’という記録ビデオがあります。見せましょう!」と早速、見せてくれた。

●ハンナ・トミコ・ホールレス氏(日系アメリカ人二世・聾者女性)
ビデオで登場したのはルス・ミヤウチさん(故ハンナさんの姉)と
ASL通訳者(兼進行役)。

ルスさんは「妹のハンナさんは1996年8月にてガンで亡くなった。
・・・ハンナさんについて語ります」1927年にて私は8歳の時でハンナ

さんが2歳頃で聞こえないことを気が付いて父が病院へ連れて診てもらったが、間違いなく判断した。家族の間でどうやってコミュニケーションしたらよいか？と大変だった。妹から姉に通訳したくても話が通じなくて無視するつもりはないのだが、いい方法は見つからなかった。ハンナさんは1933年カリフォルニアろう学校へ通って楽しく学んでいたが、1942年は第二次世界大戦開始の為にハンナさんだけでサクラメント（バークレー）にあるろう学校へ転校したけど結局は父がハンナさんを連れ戻し、家族と一緒にキャンプのマンザナー収容所へ移った。しかし、マンザナー強制収容所内は普通学校のみだった。そして終戦後でしかたがなくてハンナさんはミシガン州で口話主義のあるろう学校を1948年に卒業した後カリフォルニアに戻ってきた。当時私は結婚したのずっと離れてしまって連絡もとれなかった。妹が亡くなった時ハンナさんの夫が全て持っている物を読んでみたら驚いていた。ハンナさんは強制収容所にいた時から死ぬまで書き続けていたので・ ・」

Q質問があります。第二次世界大戦が開始された時はハンナさんがろう学校に居た時でどうかしていましたか？

ええ、この話を聞いたので覚えています。ハンナさんはバークレーろう学校にいたので父がタクシーで訪れて先生と話し合っ「娘のハンナさんをマンザナー強制収容所へ連れて帰ります」と言った。

Qキャンプ（マンザナール強制収容所）に居た間はハンナさんはどのように何を過ごしていましたか？あるいはその後は何をしていましたか？

初め、妹は障害者の為に仕事やってた。（内容は???)しかし、本当に先生をやりたかったようで・ ・時が過ぎたらハンナさんは私の娘と一緒にUCLA大学へ入って娘が通訳をやっていた。又妹は日々に自覚したように学んで結婚してサクラメントへ行った。妹がある電話局へ「聾者に対して‘TTY（電話タイプ文字入り機）購入で制度を！！’」と交渉し始めたし、ハンナさんのおかげで普及が始まった。又カリフォルニア州庁へ「全米聾者の為に」と文書提出したきっかけで政府との関わりも持って運動が広まった。政府側が「今までに聾者に会ったことがないし、又アジア・ウーマンにも初めてだった」と協力出来て制度普及の喜びがあった。

Q他に運動もありましたか？

ありました。1982年、議会に対して「組合日系人キャンプ収容所」団体に参加して活動を始め日系人に対する強制収容補償法を採決するまであちこちで活動をしてたそうです。

Q素晴らしい！この活動はハンナさん以外に日系人聾者も居ましたか？

いいえ、知りませんが・ ・ハンナさんが言ってなかったのでも・ ・今に考えてみると、もっと妹からの話を聞けば良かったのに残念です。妹は1979年から障害者の為の指導員で学校にてマンザナーにて思い出を人形、布団等を手作りしてバザーをPRに広げました。兄も居て7年間に軍隊に第二次世

界大戦参戦から帰れたとか・・・。ハンナさんが家族へ本当の気持ちを伝えたかったか、わからないままで積もった紙を読んだら妹の活動はすごいと思っています。ハンナさんの友人から聞いてもっとも驚いてたのは、ハンナさんが生きていた頃「刑務所から出たロシア系（健聴者）に話したい」と、ハンナさんの自宅で話し合えた。ハンナさんが「あなたは長い間、刑務所にいた時はどんな気持ちでした？」と・・・二人がとけこんでいたように会話（筆談）していたのを見た時は写真、ビデオも撮れば良かったなあ・・・と友人が言った。ハンナさん自身が聞こえなくても相手の立場が大切なことを気持ちで伝わってくるように質問していたことは深い関心があった人だということでした。

Q最後に妹さんの感想を話してください。

妹が亡くなってからいろんな物が出て来たのはたくさんの紙が全米聾者の為のTTYへ普及で申請書、日系人キャンプ収容所の補償で活躍したとか・・・日系アメリカ人としてのリーダーはしかも、聾者であることは誇りです。又は日系アメリカ人聾者の中から後継者が続いてほしい。

Q出来ればハンナさんに関して本を発行して頂きたい。

もっと調べる必要があり時間がかかるかもしれないが、それを望みます。

又は、当所の図書館からインターネットで情報を頂いた分も取上げます。

●ロナルド・ヒラノ氏（日系アメリカ人三世聾者）

「第二次世界大戦にて見た日系アメリカ人三世聾者」

アメリカの為に悲しみを二つの国に越えた。ロナルド・ヒラノさんが個人的な話でカルフォルニアの間で成長するまでに第二次世界大戦について語っていた。

私の父と父の両親（祖父・祖母）は日本から来ました。私たちは日系アメリカ人として誇りを持っていました。私は9歳の時、同じ部屋にいた父はラジオを聴いた時は突然、悲鳴をあげて叫んだので「何があった？」父に尋ねました。父は黙ったままでした。ずっと、あとになってわかったのはパールハーバー爆撃のことであり、日本とアメリカが開戦したからでした。

当時、私の両親や他の日系人たちはキャンプにて収容生活を強いられ、私はカルフォルニア州立バークレー聾学校に行っていました。そこに難聴の学生たちがいたものの、日系アメリカ人の学生は少なく、むしろ、職員の方が多い位でつまらなかった。

第二次世界大戦に参戦し、又は、アメリカの為に戦った多くの日系アメリカ人たちは不適応な対応をとったアメリカ政府は、精神的な肉体的な苦痛に対し、謝罪しました。もちろん、日系アメリカ人たちの中には私の両親も含まれていました。

(ゆっくりと図書館でくつろいで調べようと思っていたら、職員が「ごめんなさい!あと5分で閉鎖します」と言われて・・がっくりした。その日は一生で忘れようとしても出来ない事件が‘テロ同時多発・NY’発生した日でした。朝に見たTVで知ったが、全米も戒厳令が出たとは・・)

一日系アメリカ人の特徴点一

- 日系一世・・「排日」の嵐の中で耐えてきたのは‘竹’のようである。
- 日系二世・・アメリカで生まれ、アメリカ環境文化に育ってきたので‘バナナ’ (外見は日本人、中身はアメリカ人) のようである。
- 日系三世・・抑圧の歴史を含めた「アメリカ」への激しい告発と抵抗を開始した‘蜂’のようである。
- 日系四・五世は完璧なアメリカ人としての意識を活かしている。

●ルス・イチガワさん (日系アメリカ人二世・聾者女性)

ロスに居た間で日系アメリカ人としてのインタビューを受けて下さったのは一人だけだったルスさんが住んでいる所は完全な年金生活である州立聴覚障害者の為のアパートへ訪れた。

ルスさんは今、70歳になっても公立学校の先生のアシスタントをしている。(アメリカでは先生の他にアシスタントがつくことが義務づけられている。州によっては違います。又アシスタントはボランティアとパート {これから免許をとろうとする人の為} 忙しい時間中でルスさん自身から語ってくれた。ルスさんは東京で生まれ、小さい時に病気の為に聞こえなくなったが、当時ろう学校へ通っていたのは口話主義でイヤだったとか、又はどこのろう学校だったか、日本の手話も記憶がないと言った。戦時中は東京空爆中で恐かった! 1952年5月8日家族と一緒にロスへ移住して以来日本に帰りたとは思わない。ロスに来てからカリフォルニア州立ろう学校に入ってASLを覚えた。若い時は帽子を作る手作業をしていたが、手先が器用だったから働けたけど周囲は健聴者ばかりでつまらなかった。今の生活と仕事に満足しているし、家族は妹だけでここ(アパート)の近くに住んでいる。もう両親は前に亡くなっている。平日はボランティアしてして休日はTVを見たり、ショッピングで楽しんだり、友達と会ったり、これ以上に望みがないと言われたインタビューで応えて下さったルスさんのイキイキと輝いている笑顔を見て今までに苦悩等を語らない気持ちがなんとなくわかってきたように感じた。

(ASL通訳/英語訳 協力者 KIY)

やっとな米日系人博物館へゆっくりと見に行ったら、移民に使われたスーツケースの山である入り口から日系人コミュニティ百年物語のある展示室内は①復元バラック(強制収容所跡から移築したバラック)②一世の開拓者たち(日系コミュニティのはじまり姿)③強制収容所(強制収容の違法性を訴えた姿・米兵として参戦した二世姿)④明日への戦い(三世のアメリカ市民権運動、国家賠償を勝ち取った姿)遺品・写真等を見て目頭が熱くなった。でも身体障害者に関することは一つも表示がなかったので、それを要望し

てみたい。

一日系アメリカ人の歴史一

★アメリカに日系移民した歩み★

現在はアメリカに暮らしている日系人は見た目では「日本人と見分けがつかない」と多く居るが、移民した人から数えて3世、4世は日本語を話せる人が居ないし、意識の上はアメリカ人という100%である。国勢調査によると、アメリカに住む日系人人口は約85万人だがアジアとしては第3番目となっている。最初、日本からアメリカへの移民は1868年、出稼ぎ移民の労働者として到着したが1924年の「排日移民法」によって完全に移民が停止されるまでの間に多くの日本人移民が居て、今のアメリカに住む日系人は、その子孫である。アメリカへの移民が始まってから現在まで約130年間に日系人は様々な経験を味わってきた。

☆1841年～1898年 「移民初期」

日本人は153人が砂糖きび農場の労働者としてハワイに渡った。しかし、当時は砂糖きび農場の労働監督はスペイン、ポルトガル人、マネージャーはヨーロッパ人で日本人は皆、汗みどろで肉体労働者だった。1880年代後半になるとアメリカの高賃金に魅せられてカリフォルニアへ移民する日本人は6000人を超え、日本語の新聞や雑誌も刊行されるようになり、日系人の定住の始まりであった。

☆1900年～1936年 「移民と排日運動期」

日本人移民が殺到の為に仕事を奪われるのを心配したアメリカ人による日本人排斥の動きが強まり、日本人移民を制限した。一世は日本人農業組合を組織連携し、農業開発の発展とともに、白人の反日感情も高まってきた。又は一世は土地所有を禁止上で異人結婚は法律で認められていないために日本にいる親戚に通して多くの「写真花嫁」が渡米し、結婚して家庭を築き、アメリカ生まれの二世はそこから運命が始まったのであろう。二世はアメリカ文化の影響が強く公立学校へ進学、英語を読み、話せるし、楽しんでたが、両親から日本的な道徳心や文化も二重に学んでいた。

☆1937年～1945年 「太平洋戦争と強制収容期」

日本の真珠湾攻撃は過去、続けた排日運動を再び激化させ、砂糖きび耕地から強制収容所へ続く日系人排斥の歴史ページを忘れてはならないという第二次世界大戦期は日系人にとってはつらい時期であった。ルーズベルト大統領は行政命令9066号に署名し、日系人の強制収容が進められたが、収容所は湿地帯や砂漠地帯に鉄線に囲まれたバラックが建てられ、コミュニテイ生活はプライベートがなく、長い列と狭苦しい中で戦時中の反日ヒステリーの中で「民主主義・自由・人権」という理想は無視された日系人の動きが始まったのは二世が自らの忠誠心に示してからである。第442連隊戦闘部隊（ヨーロッパ戦線）日本語通訳（太平洋戦線）も活躍し、戦場で見せた戦い

振りは日系人に対するアメリカ社会の認識を変えただけでなく、兵士たちは故郷に戻ると戦後日系人コミュニティ再建の原動力となり戦後補償運動も重要な意味につながった。

◆アマツチェ (コロラド州)	7, 318人
◆ギラ・リバー (アリゾナ州)	13, 348人
◆ハートマウンテン (ワイオミング州)	10, 767人
◆ジェローム (アーカンソー州)	8, 497人
◆マンザナー (カリフォルニア州)	10, 046人
◆ミニドカ (アイダホ州)	9, 397人
◆ローワー (アーカンソー州)	8, 475人
◆ツーリレイク (カリフォルニア州)	18, 789人
◆トパズ (ユタ州)	8, 130人
◆ポストン (アリゾナ州)	17, 814人
(合計 120,000人)	

☆1946年～1965年 「戦後復興期」

第二次世界大戦終結して収容所が閉鎖され日系人は「新しい希望と人生を歩み出す」と精神的な打撃も大きかったので白人社会への同化を求め、同じように行動したり、アイデンティティも発展した。日系一世は市民権を取得し、日系人初の上院議員が選出され、はじめてハワイ知事に選出され、日系人の地位は向上し、目覚ましい経済的、政治的成功を遂げるうち、アメリカ社会は日系人に対して「模範的」マイノリティと呼ばれるようになった。

☆1970年～現在 「補償運動期」

戦後、日系人はどんな社会運動を展開したのか・・・1960・70年代に盛り上がった公民権運動、黒人解放運動はアメリカ人の意識を変えた中に新しい法律が数多く制定された。日系人の強制収容に対する謝罪と損害賠償を求める運動は急速にいった中で当初、多くの日系人は心の古傷に触れられることはあまり乗り気がなかっただけではなく、どのように勝ち取るかについて方法論や多様な考えが混在した。1981年「戦時民間人転住・収容に関する委員会」による最初の公聴会が開かれ、全米10都市も公聴会で証言に立ちそれらを「人種的偏見・戦時の狂乱・政治的指導の過ち」に基づくものであると結論づけ、報告書を議会と大統領に提出した。1988年、強制収容に対する補償を規定した「市民的自由法」にレーガン大統領が署名し、政府による個人補償金(2万ドル)を被強制収容者に渡された。長年の運動によって実現した日系アメリカ人への謝罪と補償により、日系人はアメリカへの信頼をとり戻した。現在は四世・五世の世代になり、彼らの自己・他者意識も大きく、又は日系人以外と結婚している。多文化多民族が共存・共生する変化によってアメリカの歴史の中に埋もれてきた日系人の歴史的経験も、新しい視点から見えるようになったのである。

★全米日系人博物館★

この博物館は日系アメリカ人の歴史と文化を伝えていく為に1985年ロス

在住の日系企業経営者、第二次世界大戦退役軍人らの手で活動を始め、1992年は本館（元西本願寺）として第一歩を踏み出し、1999年は新館が完成し、活動の範囲を広げている。館内は展示室、ギャラリー、ミュージアム、ショップ、収蔵庫、ライブラリー等配置されている。

（参考資料 日系アメリカ人の歴史）

★マンザナー収容所跡★

1992年に国民である歴史上の用地に制定されたカリフォルニア州にあるマンザナー日系人収容所跡はロスからモハビ砂漠を通して約3時間位かかる所にある。

ー今後の活動目標についてー

私はASL・英語は出来ないだけではなく、情報ネットワークも不足気味でいい勉強の一つになった。日系アメリカ人聾者の素顔を知る機会を作れたが、もっと年配の方（特に第二次世界大戦中に強制収容所で過ごした）に直接のインタビュー取材をやるのが目的です。

今回はロス市内・郊外中心で廻ったが、今後からは全米（東海岸、ハワイ等）カナダも足を伸ばして行きたい私は「日系アメリカ人の聾史を探るために来たので資料とかあれば下さい。現在は日本聾史学会で研究をやっています」と言ったら、皆（アメリカ人）は驚いていた様子で少しはあったが、情報をくれた。「今更になぜ日系アメリカ人の聾史研究を??」と質問されたが「小さい時から関心を持っていたが、今までに日系アメリカ人聾者自身で書いた本を見たことがない。又は日本の一般書店には「日系アメリカ人自身が強制収容所体験、第二次世界大戦参戦した等の本がたくさん並んでいる。だから掘り起こしたい!」と言った。ユダヤ系アメリカ人女性聾者から話を聞いたら「わかるわ ユダヤ系聾者の場合も収容所から生き帰った体験話をまとめた本ならあるわ 日系アメリカ人聾者も共感があるね 調べる時間がかかるけどね」と言われた。

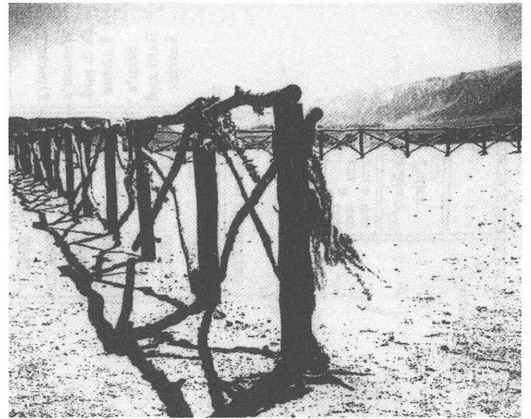
又は日系三・四世聾者たちにも「あなたと同じ日系アメリカ人聾年配に会ったことがある?又は日系アメリカ人に関する聾史を探ってみたいとか考えてない?」聞いてみたら「会ったことがないね・・年配たちは表に出さないだけなのか、それとも話し合える機会がなかったね・・日系アメリカ人の聾史ね・・考えてなかったではなく今の状態は日系アメリカ人というよりアジア人という意識で活動をしている」という返事だった。よく考えてみたらこうじゃないかな???とってしまった。

日系アメリカ人健聴者のアイデンティティの第一はアメリカ人第二はアジア人・日系アメリカ人聾者のアイデンティティの第一は聾者第二はアメリカ人第三はアジア人かな??

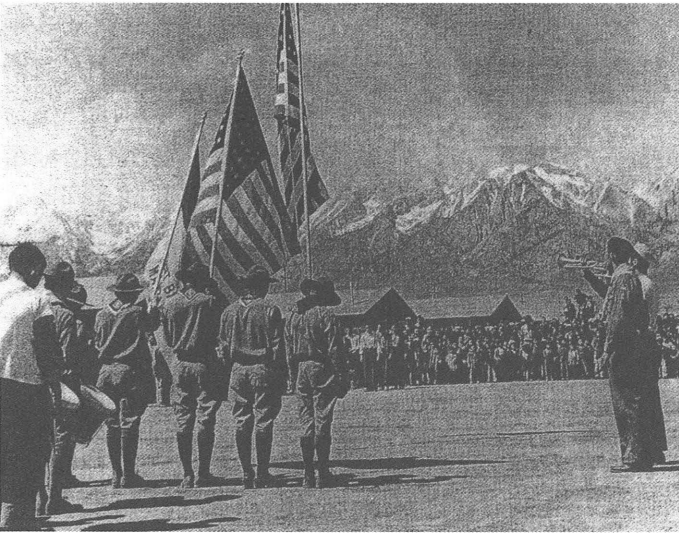
私にとっては大和魂と共に「日系アメリカ人聾史」を探っていききたい。（テロ同時多発発生した為に帰国予定より延ばしたおかげで少しでも情報を収集できた様だと皮肉の組み合わせだったと感じている。しかし、発生したニュース、新聞も「1941年12月7日日本軍がパールハーバー爆撃以来でショック!!」だとアメリカ聾者からも言われた。私から「違うね テロと戦争は別だよ?」そして米国市民は「We Go War!」だと・・なんの偶然なのか?)



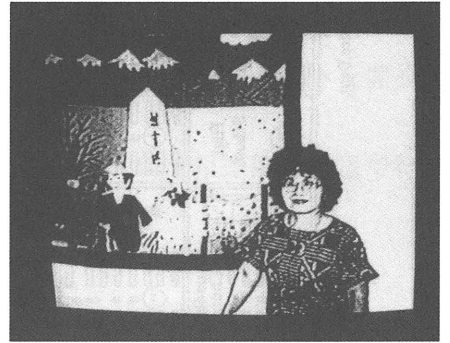
① マンザナー強制収容所跡にて



② 千羽鶴が見える……



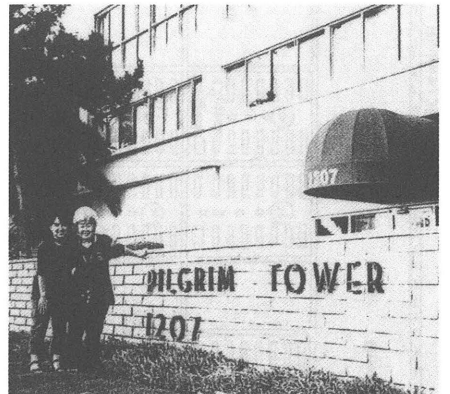
③ 収容所風景 1943年



④ 故 ハンナ・トミコ・ホールレス氏



⑤ 日系人戦闘部隊



⑥ ルス・イチガワさんと……

①②④⑥ → 撮影(本人)

③⑤ → 日系アメリカ人の歴史資料

Hog Farm

Guard Tower #5

Guard Tower #4

Cemetery

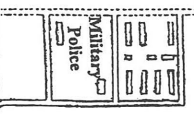
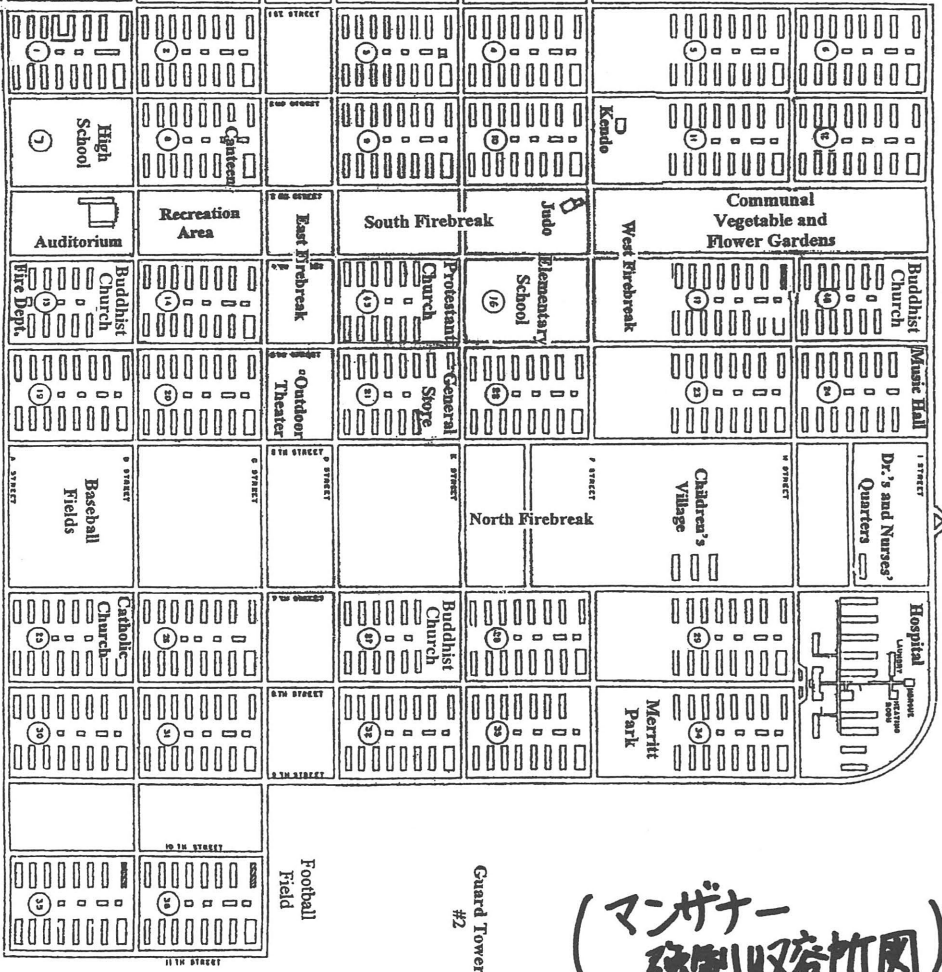
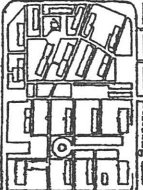
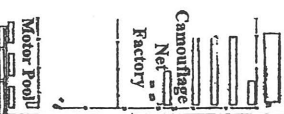
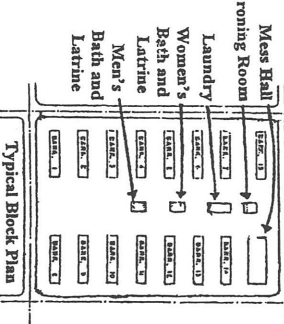
Guard Tower #3



Bairs Creek

Guard Tower #6

Guard Tower #2



Guard Tower #7

Sentry Posts

Police Dept.

Guard Tower #8

Guard Tower #1

Highway 395

(マンガナー 強制収容所図)